

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-142	24-045	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
The effects of alcohol use on smoking cessation treatment with nicotine replacement therapy: An observational study ニコチン置換療法による禁煙治療におけるアルコール使用の影響：観察研究		
執筆者		
Wong BKC, Veldhuizen S, Minian N, Zawertailo L, Selby P.		
掲載誌		
Addict Behav. 2024 Aug;155:108045. doi: 10.1016/j.addbeh.2024.		
キーワード		PMID
アルコール、ニコチン、禁煙、タバコ		38692071
要 旨		
<p>背景: タバコとアルコールの同時使用者は、どちらか一方の物質のみを使用するよりも害を及ぼすリスクが高い。タバコとアルコールの同時使用が、アルコール使用と関連する問題のレベルにおいて、禁煙にどのような影響を及ぼすかは依然として不明である。本研究では、禁煙とアルコール使用問題のレベルとの関係を評価した。</p> <p>方法: 59,018 人の参加者が禁煙プログラムを通じてニコチン置換療法を受けた。アルコール使用と関連症状は、アルコール使用障害識別テスト (AUDIT-10) と AUDIT-Concise (AUDIT-C) を用いて評価した。対象者を、過去 1 年間にアルコールを使用していない; AUDIT-C 基準を満たしていない; AUDIT-C 基準を満たし、AUDIT-10 スコアが 8 未満 (低リスクまたはより低いリスクの消費); AUDIT-10 スコア 8~14 (有害または危険な摂取); AUDIT-10 スコア 15~40 (中等度から重度のアルコール使用障害) に分類した。主要アウトカムは、6 ヶ月追跡時の 7 日間禁煙率 (PPA) であった。混合効果ロジスティック回帰を用いて、クリニックをランダム切片とし、アルコール使用 (および関連する問題) と禁煙との関連を評価した。</p> <p>結果: 6 ヶ月後の 7 日間 PPA は、危険な飲酒基準を満たす群で低く、禁煙確率は最も高いリスク群で最低であった。禁煙成功確率は、アルコール使用および関連問題のレベルが高くなるにつれて低下した。調整後の予測確率は、非飲酒者では 30.3 (95%CI=29.4, 31.1)、低リスク飲酒者では 30.2 (95%CI=29.4, 31.0)、AUDIT-10 のスコアが 8 以下の者では 29.0 (95%CI=28.1, 29.9)、スコアが 8~14 の者では 27.3 (95%CI=26.0, 28.6)、スコアが 15 以上の者では 24.4 (95%CI=22.3, 26.5) であった。</p> <p>結論: 少量または非摂取の者と比較して、多量で危険なアルコールの摂取は、禁煙成功確率の低下と関連している。このグループにアルコール治療のターゲットを絞ることで、禁煙成績が向上する可能性がある。</p>		